

令和5年度九州農政局「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」選定地区

ビジネス・イノベーション部門

No.	都道府県	市町村	地区名		取組の概要
1	長崎県	対馬市	有限会社丸徳水産	 <p>定置網で水揚げされた食害魚と開発したフィッシュバーガー等</p>	藻場の喪失(磯焼け)により魚介類が激減している状況を踏まえ、海藻類を食い荒らす食害魚(イスズミやアイゴ等)を資源として活用し、磯焼け対策・生態系保全に寄与。独特のくさみから利用価値が低かった食害魚を「食べる磯焼け対策」としてメンチカツ等に加工。販路を島内土産店やスーパー、学校給食へと広げるとともに、藻場再生事業として、ヒジキの育成や藻場再生の現場を巡る「海遊記」ツアーを事業化し、子供連れの観光客や修学旅行客で令和4年の事業開始以来、600名以上の参加実績。
2	大分県	宇佐市	宇佐ジビエファクトリー(有限会社サンセイ)	 <p>処理研修施設・日本ジビエアカデミー</p>	有害鳥獣の処理・加工・販売を一貫して行うほか、知識と実技をマスターできる日本初のジビエ処理研修施設を設立、ジビエが全国スタンダードとなることを目標に、県内外の事業者にも製造技術を公開。鮮度が良くても人間の口に適さない繁殖期の雄や加齢鹿・猪の肉をペットフードとして供給するなど、令和4年の年間処理頭数は1301頭(鹿926頭 猪375頭)と大幅に増加。社会科見学やインターシップも実施し、命を無駄にしないサステナブルな活動として食育にも貢献。
コミュニティ・地産地消部門					
No.	都道府県	市町村	地区名		取組の概要
3	宮崎県	都城市	有限会社徳重紅梅園	 <p>土鍋で梅の青汁を煮詰めて作る「梅肉エキス」</p>	有機肥料を主体とした徹底した土作りによる梅栽培、地域に伝承される道具や製法を守る加工法を、半世紀以上にわたり信念として実施。取組の結果、町内地域グループにおいて有機梅生産の取組が定着、有機梅生産組合の結成に至る。大淀川源流に整備した梅園4haは過疎化対策と景観保護にも貢献。土鍋で煮詰めて作る梅肉エキスや梅干しで元気になったとのお礼の声に励まされ、子供の健康を心配する顧客に少しでも安価な商品提供に努力したいとの考え。